

# リベラ

## 特集：中島大水道…1

災害時要援護者の避難を一緒に考えよう…3

忙中一筆 谷貴美子…5

応援してくださった皆様へ…6

釜石あづまっぺ! 通信…6

みんなで集めれば大きな力に～2012年廃油回収6000リットルを超えました…7

医療従事者向け「ぜん息・COPD患者の呼吸リハビリテーション」講習会を開催…9

公害補償制度の危機～補償法の財源・自動車重量税廃止をめぐる動き…10

西淀川記憶あつめ隊：千葉修さん…11

ぶらりとゆるりと西淀川めぐり 和菓子の手土産編…12

柏里の虹色コラム…12

あおぞら広場…13



矢倉干潟でエサを探す、旅鳥オオソリハシシギ 写真提供：橋本正弘



環境住宅研究会 (Green)主催のDIY講座で西淀川区内の住宅をセルフ工事。



あおぞら  
フォトギャラリー



環境住宅研究会 (Green)主催の園芸講座。アケビのつるで籠を作り、寄せ植えをしました。(2013.3.13)



空気のよごれ調べとにしよど環境・子ども提案づくり (2012.12.27) 西淀川区長の前で子どもたちが提案を発表



### ●あおぞら財団 会員のつどい2013

第一部：『命でなんぼなん？-泉南アスベスト禍を闘う-』上映会  
第二部：活動報告会  
第三部：昼食交流会

日時：6月9日(日)

第一部10:30～、第二部12:00～、第三部12:30～

場所：あおぞらビル

【日本野鳥の会大阪支部との共催】

### ●矢倉海岸定例探鳥会

日時：5月4日(土)、6月1日(土)、7月6日(土)9:30～12:30

集合：阪神なんば線「福」駅改札口、解散は矢倉緑地



### 【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。  
午前：1,000円／午後：1,300円／夜間：1,300円／全日：3,000円

### 【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。

開館日 月曜日と金曜日(10:00～17:00)／要事前電話予約

●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

あおぞら  
ビル

## あおぞら財団とは

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978～1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階 (TEL) 06-6475-8885 (FAX) 06-6478-5885 電子メール: webmaster@aozora.or.jp http://aozora.or.jp/



- JR東西線御幣島駅①出口すぐ
- 阪神電車姫島駅より徒歩10分
- JR神戸線塚本駅より徒歩15分



会員・寄附募集

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

●賛助会員 会員の方には機関紙などをお送りします。

【年会費】個人：年一口5,000円、学生：年一口2,000円、法人・団体：年一口10,000円

### ●会費・寄附の振込先

\*郵便振替口座 00960-9-124893

加入者名：あおぞら財団

\*三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店  
普通 3764689 口座名義：あおぞら財団賛助会員

りそな銀行の専用の口座は閉鎖いたしました。ご不便をおかけしますが、ご了承ください。

## 中島大水道の跡を歩いてみよう

中島水道サロンでは、東淀川区、淀川区、西淀川区の中島大水道跡をたどるまち歩きをしました。



4 アケミ幼稚園の角を90度曲がって流れていました(淀川区野中南)



2 中島大水道を埋め立てた上に新幹線が通っています(東淀川区西淡路)



1 中島大水道の起点には「新太郎松樋」の石柱と「中島大水道頭彰碑」が建っています(東淀川区西淡路)

中島大水道  
スタート



1885 (明治18) 年の地形図

今の淀川は、大阪のまちを洪水から守るため、人工的につくられました。

中島大水道  
ゴール



8 中島大水道のゴールは、今は淀川の下(西淀川区福)



6 大野川緑道の約半分は、中島大水道の跡です(西淀川区御幣島)



5 この階段は中島大水道にあがる土手だったそうです(淀川区十三パイパスの高架下)



7 中島大水道跡の碑(西淀川区千舟)



3 建設の指揮をした3人の庄屋さんが祀られているさいの木神社(淀川区西中島)

## 特集

江戸時代  
農民達の  
歴史を語る

# 中島大水道

nakajima daisuido

中島大水道は、江戸時代に掘られた全長9.5kmの農業用の排水路です。今の東淀川区西淡路から、現在の淀川区、西淀川区を通り、海へ流れ出ていました。この一帯は、今は市街地が広がりますが、戦前は農作地域でした。

中島大水道開削には、地域のために命をかけた江戸時代の農民の物語があります。今は埋め立てられかたりにくくなっている中島大水道を紹介します。

### 各区の中島大水道の今を、『中島水道サロン』の皆さんが紹介

【中島水道サロンメンバー募集中】  
中島大水道を学ぶ場をつくっています

\*『中島水道』ともよばれています。

西淀川区の『大野川緑陰道路』の約半分は、中島大水道を埋め立てたものです。高速道路の計画がありましたが、住民の反対運動もあり現在の緑陰道路になりました。

淀川区には、中島大水道の公的な案内版や碑はありません。過酷な百姓普請(負担)の歴史を残すのはさいの木神社と西町霊園くらいです。

東淀川区には、中島大水道の起点・新太郎松樋があります。今は、新幹線の高架や道路になっていますが、橋や土手の名残が残っています。



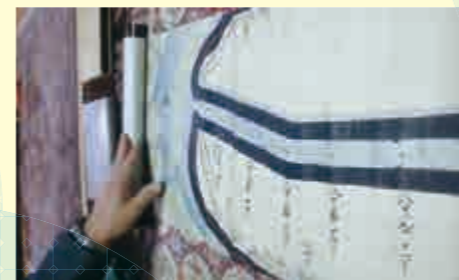
元姫里小学校教員  
緑道サロン  
天野 憲一郎さん

淀川区在住 落語家  
笑福亭 仁勇さん

東淀川区在住  
ECOまちづくりワークショップ  
藤元 百代さん

### 中島大水道ものがたり

私の先祖は三庄屋のひとり柳太郎兵衛です。  
—柳 正義さん(東淀川区在住)



—柳家には、中島大水道を管理するための古文書が残っています

江戸時代、北中島(現在の東淀川区)の一帯は、低地のため田畑にあふれた水がなかなか抜けず困っていました。そこで村民は幕府に対し、排水路の設置を訴えました。延宝5(1677)年、ようやく幕府は排水路の開削を許可しますが、「工事費用はすべて百姓普請(負担)」という条件でした。不作で苦しむ農民達は「せめて多少の補助を」と幕府に嘆願しましたが、感情を害した幕府は設置の許可を取り消してしまいました。ついに耐えられなくなり農民達は無許可のまま工事を強行し約9.5kmもの水路を完成させました。この中島大水道の工事の指揮をした三人の庄屋が、幕府に対し抗議の自決をしたという言い伝えも残り、「さいの木神社(淀川区)」に地域の義人として祀られています。





参加者同士で地域の課題の共有化、布担架を用いた避難支援体験等を行いました。(2012年10月22日西淀川区役所にて)

**要援護者と共におこなった避難訓練**  
 11月4日には、佃地区から協力を得て、地区での防災訓練に併わせて、要援護者の避難訓練を行いました。この避難訓練には、視覚障がい者2人、車いす利用者5人が参加しました。

**今後に向けて**  
 今まで、要援護者が避難訓練に参加するということは、あまり行なわれていませんでした。要援護者本人や介助者は、災害が起こったら自分たちは生きていけるのだろうか？という不安を抱えています。多くの方々の協力をいただいで実現した今回の取組みで、要援護者と地域のコミュニケーションの輪を広げるきっかけとなったのではないかと思います。今後も、あおぞら財団では、「みんなで助かる！みんなが助ける！」を実現するために、災害時の要援護者支援の取り組みを続けていきたいと思います。



避難室体験として、簡易ベッド、簡易トイレなどの災害備蓄用品などを体験してもらいました。(2012年11月4日佃西小学校にて)



津波避難ビルにて、要援護者の方に実際に担架ののってもらって、ビルの階段を上り下りする訓練を行いました。(2012年11月4日新佃公園前にて)

この事業は「独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業」を受けています。同様の取り組みを明石市、堺市においても実施しています。

フェイスブック  
<https://www.facebook.com/engoshakyouiku>  
 活動ブログ  
<http://aозora.or.jp/archives/category/chiiki/saigai>



にしよどがわ防災まちづくり通信 VOL.2配布中

表 西淀川区における過去の主な災害

年	災害	被害
1934年	室戸台風	神崎川の氾濫により、中島、西島、布屋、大和田、佃などが浸水。
1950年	ジェーン台風	西淀川区全域で浸水。死者・行方不明者58人、家屋の全半壊・流失計8,786戸、床上浸水6,130戸などの被害。
1961年	第2室戸台風	高潮で神崎川氾濫。大和田・出来島・御幣島などで床上浸水被害。
1995年	阪神・淡路大震災	区内各地で液化化による地盤沈下が起こり、家屋全半壊、道路破損などの被害。

表 南海トラフ巨大地震による西淀川区の被害想定

区内最大震度	津波高 (海岸付近の最大値)	海岸付近の堤防高さ	海岸付近への 津最短到達時間
6弱	OP*+4.4M~5.5M	OP*+7.6M~8.1M	120分

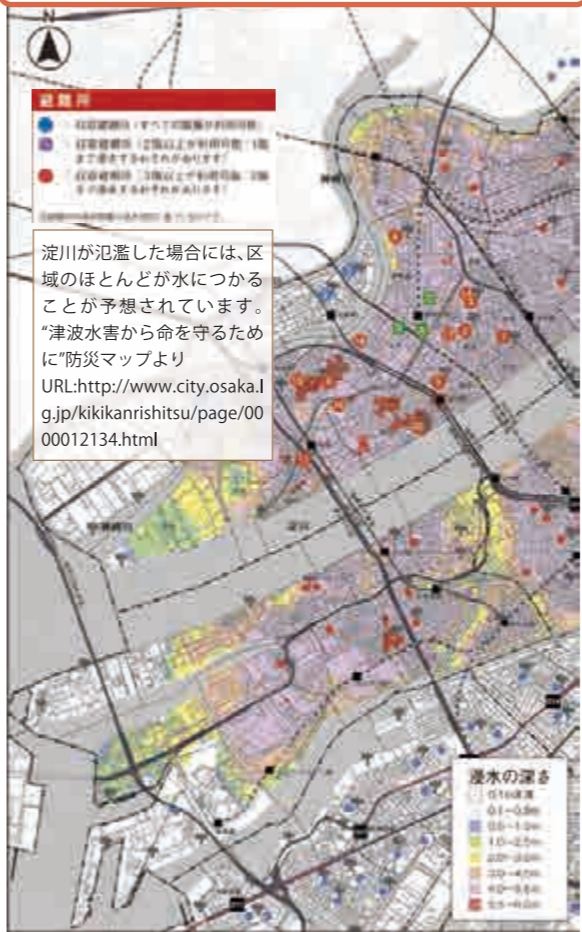
\*OP: 大阪湾最低潮位面

# 災害時要援護者の避難を一緒に考えよう!

あおぞら財団 特別研究員  
谷内 久美子

おとほしはる...  
みこはる...

淀川が氾濫した場合(西淀川区)



**西淀川は水害に弱いまち**  
 西淀川区は、淀川、神崎川に挟まれ大阪湾に面しており、かつての湿地帯であったのを埋め立てていること、地下水のくみ上げなどによる地盤沈下などにより、区域のほとんどが海抜ゼロメートル地帯になっています。そのため、西淀川区は、過去から繰り返し大きな水害に見舞われてきました。  
 今後、マグニチュード9クラスの南海トラフ巨大地震がおきした場合、西淀川では、震度6弱、

津波高は4.4~5.5m、津波の到達時間は120分と予想されています。  
**大事な命を守る**  
 災害が起きた時、一番大事なことは自分の命を守ることです。しかし、高齢者や障がい者などの援護を必要とする人々(要援護者)は迅速な移動ができず、自分で自分の命を守ることが困難です。東日本大震災でも、死者・行方不明者のうち6割は60歳以上の高齢者ですし、障がい者の死亡率は住民全体の2~2.5倍と、

多くの要援護者が逃げ遅れて命を亡くしています。  
 こうした要援護者は特別な人々でしょうか？  
 隣に住んでいる方が支援を必要としている人かもしれませんし、現在、健康であったとしても一



**要援護者支援の輪を育てる**  
 みんなで助け合おうという気持ちをはぐくみ、要援護者の支援方法と注意点を知らせてもらうために、2012年10月15日、22日の2回にわたってセミナーを行いました。  
 そこで、あおぞら財団では、災害時の要援護者の避難を支援できる人を増やすことをめざして、セミナーと避難訓練を行いました。



車いすユーザーで災害時の避難グッズなどを開発している梶紀久代さんなど複数の要援護者の方からお話を聞きました。

## 「貴美ちゃん上手やなあ」がきっかけ

あおぞら財団とつながりのある人からエッセイを寄せてもらっています。手染めアートの谷貴美子さんです。



谷 貴美子 (たに きみこ)

HAND PRINT・PAINT (手染め・手描き) 回天堂 アトリエキミコ代表。子どもの頃から絵を描くのが好きで、繊維デザインの道へ。時代の流れとともに工夫を重ねながら手染めアートとして天然繊維の染色で活躍。大阪市西淀川区在住。

誕生まもなく、西淀川野里に住む事、六十五年。当時の町の様子は今もはっきり憶えています。田んぼがあり、平屋の市営住宅が建ち、まさに高度成長の入り口でした。五歳から児童館で絵を習い始めました。遊びながら

のお絵描き教室です。絵を描くのが好きで、近所の道にろうせきで一面に描いていました。「貴美ちゃん上手やなあ」と声をかけられるとよけいうれしくて、じゃんじゃん描き続けました。そして後々デザインの仕事をす



イタリー製のシルクの白生地を4色の染料で地染めし、その上に大きな刷毛で自由に柄を描き染めます。

るようになったきっかけかも知れません。

の期間でしたが、宝のような日々でした。師に感謝一杯です。

転機がありました。コンピュータという怪物が出没。手描くという仕事が激減して来た所、知人のお父さんが、これからは中国で大量生産か、一点物づくりになると言われ、染色を教わるようになりました。作品を創り売り先もわからず試行錯誤の連続。パートの催事に十年行き、その後各地のギャラリーで個展をしてきました。今挑戦しているのは、丹後シルクやウールの手染め手描き染めです。これをしている人はほとんどいません。何度も失敗の連続です。でも競争のない分野ほど商機があります。月に一回、イコバのギャラリーをお借りして展示即売させていただいています。仕事が楽しくてたまりません。

**大好きな仕事にかかわった宝のような日々**  
柏里小学校の四・五年生の時の担任、旧姓藤原 故井上早苗先生の授業は生涯忘れられません。生徒一人一人の能力を引き出され創造力豊かな人間づくりをされました。油絵や南宋画も学外で勉強致しました。二十歳より繊維デザインの道に入り、万博が始まり、好景気で活気があり、新しい柄の創作に明け暮れました。早く一人前になりたく、先生が試し塗りをして捨てられたゴミを拾い、帰宅後、夜中まで色の分析をしました。過労がたたたり、病気で倒れ入院。仕事での徹夜は日常茶飯事。でも大好きな仕事で最先端の仕事を教わり、一年半

**出来ない事も必死に勉強**  
退院後、ここからフリーデザイナーとして働くようになりました。父は商売をしていたので、心得のような話を話してくれました。三本の矢は折れん。一社ではなく常々複数の仕事をするようにと言ってくれ、図案の仕事は掛け持ちしていきましました。染工場の方や営業の方に教わりながら経験のない分野の仕事もこなしました。ゆかた以外の図案はすべて引き受けました。出来ない事も必死に勉強したら、それだけレパートリーが増えます。今でも四十年余り前の図案が頭の中にあるので再現出来ます。

**一点物づくりの染色**  
そして昭和五十八年に大きな

## 応援してくださった皆様へ

バイオディーゼル燃料で走る「あおぞら号」2011年4月寄贈



岩手の復興のためにあおぞら財団様はじめ、皆様には岩手県沿岸へのあたたかいご支援を一つづけていただき、誠にありがとうございます。

岩手県の冬は長く寒さも厳しい土地です。震災以降、寒さや積雪が被災者の生活に大きな影響を与えています。そして、岩手の復興に関しては、雇用の場の創出・確保、住宅地の確保など

まだまだ課題は多い状況にあります。そのような中、当法人は微力ではありますが、仮設住宅の見廻り(現地雇用のスタッフが定期的に訪問)やコミュニケーションの場の創出を目的にしたほっとひといき事業(日帰りで遠野滞在の機会の創出)、仕事づくりの支援を通して復興の支援を継続的に行っています。

その活動の中、2012年12月7日に「あおぞら号」を使用した岩手県沿岸の復興支援からの帰り、遠野市周辺において路面凍結によるスリップ事故を起こしました。幸いにも運転をしていた当法人スタッフに怪我はなく、同乗者もなく、対人や対物の事故ではない自損事故でした。しかし、皆様から寄付をいただいた「あおぞら号」は損傷の状態から廃車とせざるをえませんでした。「あおぞら号」への寄付をいただいた皆さまに対しまして、この場をお借りしまして、報告とお詫びをさせていただきます。誠に申し訳ありません。

「あおぞら号」の寄付当初より掲げている「被災地があおぞらのように透き通ったすがすがしい気持ちになるその日まで、復興支援活動をする」ことは、現在も続けさせていただいています。女の手仕事「EAST LOOP」の他に、沿岸被災地の男性が竹を細工した男の手仕事「おいしくたけます」や「ふっこうのかけはし」の販売も開始しております。当法人としては、被災地に元気が戻るその時まで、微力ながらも活動を続けていく所存です。今後とも何卒よろしくお願ひいたします。

NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク事務局 <http://www.tonotv.com/members/yamasatonet/>

※あおぞら財団では「EAST LOOP」のハートブローチ、「ふっこうのかけはし」のお箸を販売しています。

## 釜石あづまっぺ通信 vol.3

「地域を好きになるといいこと」



一面の雪! IN釜石。この日、海側では雪がありませんでした。

釜石の冬はあまり雪が降りません。内陸の隣町である遠野で積雪が見られても峠を越えることがらっと一変!釜石には雪が全くないというところがよくあります。私も子どもの頃はたくさん雪で遊ぶというのが多くな、土が入り混じる雪だるまを作っていました。そんな釜石でも山のほうに行くとな雪景色の場所があります。昔はスキー場があった場所で、海側に比べると本当に別世界です。その場

三陸ひとつなぎ自然学校 柏崎 未来

所で2月頭に小学生を対象に雪あそびをしてきました。釜石の子もたちがたくさん雪で遊ぶ姿を見ながら、釜石では雪あそびが得意な人と思っていた自分にとって、新しい魅力の発見でした。もっと釜石が好きになりました。参加してくれた子どもたちも言葉で表現しなくても、体で様々に感じてくれたように思います。自分が住んでいる地域だからこそ身近すぎて知らないことがたくさんある。それはとてももったいないこと。地域を知り、それを楽しむことが地域を好きになることにつながるのではないのでしょうか。そう言っている私も勉強中です(笑)

<http://www.facebook.com/sanrikuhitotsunagi>

※あづまっぺとは方言で「あつまろう!」という意味です

### 三陸ひとつなぎ自然学校

①被災地支援ボランティアコーディネートや、②支援活動と地域を感じるツーリズムを併せた復興ツアープログラム、③震災の影響により遊び場が少なくなった子どもたちの居場所づくりを中心に活動を展開しています。あおぞら財団とは、被災地応援ツアーで連携しています。

# 廃油回収 小学生の力作そろそろ！ ポスターコンクール

廃油回収をさらに拡げるために、回収をよびかけるポスターがあればいい！『エコでつながる西淀川推進協議会』の会議の中で出された意見が、実現しました。(2013年1月)

佃連合環境衛生部 津田部長、阿南副部長の呼びかけで佃南小学校5、6年生が図工の時間にポスターを描きました。総数は57点です。最優秀賞はポスターとして印刷され、廃油回収拠点等で掲示し、回収のよびかけに使います。



廃油からハンドソープや車の燃料、キャンドルがつくれることが一目わかります。カラフルな色使いも目を引きますね。

**最優秀賞**  
油は捨てず  
リサイクル!!  
5年生 山崎啓生さん



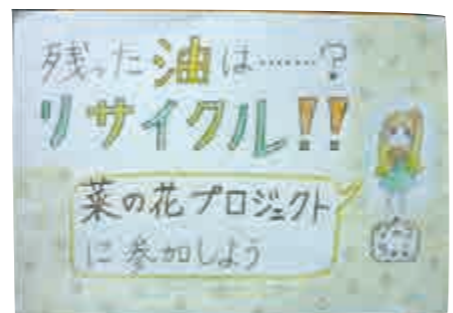
容器から出てきた油の精が印象的な絵です。このキャラクターは佃連合振興町の阿南さんがモデルだとか。

**佃連合振興町会賞**  
その油  
捨てずにリサイクル  
5年生 伊藤吉平さん



きれいな虹をバックに、かわいいキャラクターが訴えかけています。

**浜田化学賞**  
油を捨てないで  
川や海を汚さないでね  
6年生 惠土貴弘さん



お花畑に立つのこちゃんが、優しく呼びかけています。

**あおぞら財団賞**  
残った油は……？  
リサイクル!!  
6年生 石田瑞希さん



## 町会×学校

佃連合振興町会とあおぞら財団で廃油回収の活動を子どもたちに説明。いつも登下校の「見守り活動」をしている佃連合の津田さんと阿南さんは子どもたちに大人気。

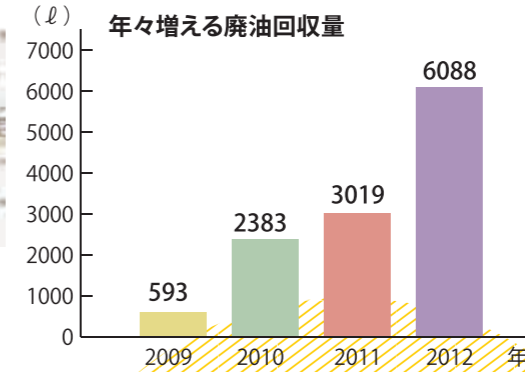
## 西淀川菜の花プロジェクト

2012年の1年間の廃油の回収量が6000ℓを超えました。これは、一般の家庭で1年間に使う廃油の量に換算すると2742世帯分※1にあたります。回収拠点や、回収のよびかけに協力した一人一人の積み重ねですね。  
例えば2007年、西淀川高校の菜の花プロジェクトのとりくみを地域で協力してあげようと、4か所で廃油回収をスタートしました。当時は環境省国連ESD※2モデル地域として、活動していました。  
小学生、中学生、高校生、大学生がそれぞれ地域のためにできることを協力してすすめる中で、子どもたちの頑張る姿を見た出来島商店会や佃連合振興町会、西淀川区薬剤師会など区

内の団体も次々に賛同し、廃油回収に協力。いまや回収拠点は50か所を超えました。淀川区や東淀川区、福島区など西淀川区以外にも廃油回収の取り組みは広がっています。  
西淀川の誇りとなるように、この活動をみんなが育てていきたいですね。



廃油回収ステーションMAP  
インターネットで公開中  
<http://bit.ly/10OaYqW>



※1 浜田化学試算による  
※2 ESD…「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)の略称で、社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観や行動を生み出すことを目指す学習や活動です。2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)」の中で、日本が「持続発展教育(ESD)の10年」を提案し、国連の実施計画として盛り込まれました。

## みんなで集めれば 大きな力に

2012年  
廃油回収6,000ℓを  
超えました

**高校生**  
活動を発表する大阪府立西淀川高校生徒

**中学生**  
廃油リサイクルハンドソープのパッケージをデザイン

**大学生**  
廃油キャンドルナイト開催

**小学生**  
オリジナル紙芝居で回収をPRするガールスカウト大阪府第26団

子どもたちも活躍!

**菜の花プロジェクト**  
西淀川菜の花プロジェクトキャラクター「なの子ちゃん」  
絵:前田萌美(当時西淀川高校)

2013年度の活動  
**菜の花でつながる西淀川**

- ①廃油回収:普及・啓発
- ②菜の花プロジェクト推進:菜の花畑を西淀川の名所に
- ③廃油キャンドルナイト:大野川緑陰道路でさらに拡げる

という3本柱で、活動します。賛同し協力してくださる方は事務局あおぞら財団までご連絡下さい。

油は捨てずにリサイクル!!!  
TEL 06-6411-3457  
浜田化学株式会社

トカンぴん2号

いつも、ご協力有難うございます。

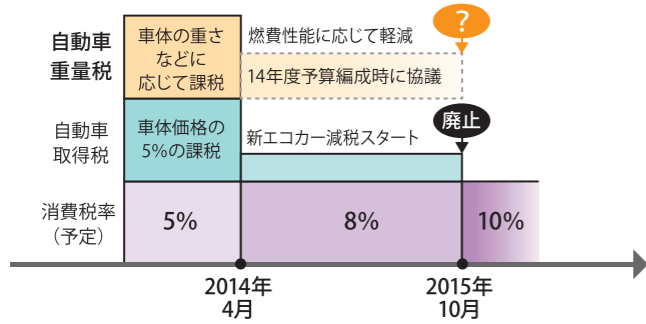
# 公害補償制度の危機

補償法の財源・自動車重量税廃止をめぐる動き

大気汚染公害によって呼吸器の病気になった被害者を救済するための公害健康被害補償制度が存亡の危機にさらされている。

大阪公害患者の会連合会、  
西淀川公害患者と  
家族の会事務局長  
上田 敏幸

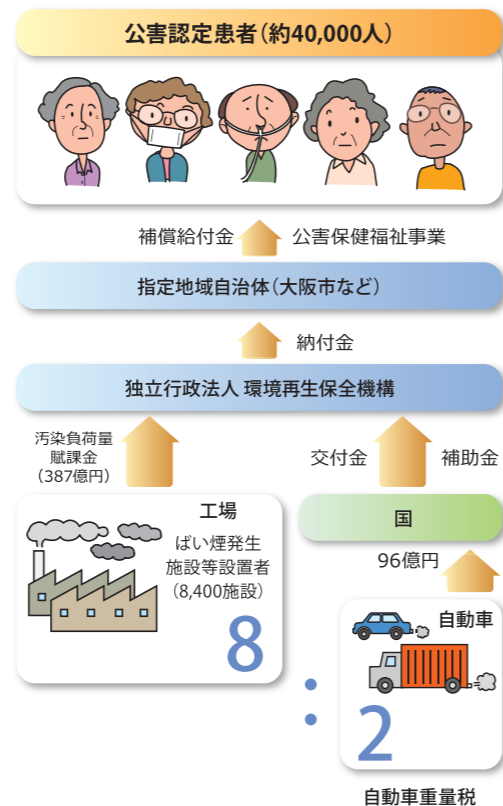
表:今後の自動車取得税と自動車重量税



**公害補償の財源  
自動車重量税**  
40年前にできた公害健康被害補償法は、現在も4万人の公害患者の医療費と生活の補償と予防のための事業を担っている。その財源は、大気汚染の原因者が負担することになっており、給付までの流れは図のようになっている。自動車重量税がなくなると、ばい煙発生事業者への賦課金

の請求ができなくなり、汚染者負担による公害補償の仕組みが維持できなくなる恐れがある。消費税8%と引き換えに廃止を検討この自動車重量税をなくせ！と言っているのがトヨタなど自動車メーカー。「車が売れないのは税金のせい」と車体課税(自動車取得税と自動車重量税)の廃止を、2014年の消費税8%実施と引き換えに実施するよう迫ってきた。環境への負担に応じて課税する自動車重量税を消費税との「二重課税」と強弁するのも無理があるが、これをなくせば、クルマによる加害責任は免罪されてしまう。

図:補償給付金と自動車重量税の関係



体改革法」にも組み込んで採決した。**重量税廃止にこだわる自動車工業会**  
政権交代後の与党(自民、公明)の税制調査会は1月24日、2013年(平成25年度)「税制改正大綱」を決め、車体課税については表のように決定した。これに対し自動車工業会の豊田章夫会長(トヨタ社長)は「自動車重量税の廃止先送り」は残念。2014年度での抜本改革を要求する」と表明し

**被害者救済制度を守れ!**  
公害病認定患者の多くは工場がまき散らしたばい煙で呼吸器の病気になり、クルマの排気ガスで症状が改善しないまま、今も苦しんでいる。公害病の患者と家族の命と暮らしを支えるかけがえのない公害補償「命綱」ともいえるべき公害健康被害補償法を増税と引き換えに脅かすなど、あってはならないことである。

※ COPD(シーオーピーディー):慢性閉塞性肺疾患。肺の炎症性疾患で、症状は咳・痰・息切れなど。長期の喫煙が主な原因とされており、かつて肺気腫、慢性気管支炎と称されていた疾患が含まれる。

**◆増える呼吸器の病気**  
最近、呼吸器の病気を抱えた人が増えてきています。とくにCOPD※(慢性閉塞性肺疾患)の患者数は世界的には約2億人といわれています。日本でのCOPDによる死亡数は約17000人(2011年)で、この数は増加傾向にあります。



呼吸リハの実技中

呼吸を  
楽にして、  
生活を豊かに

## 医療従事者向け 「ぜん息・COPD患者の 呼吸リハビリテーション」

講習会  
を  
催  
開

あおぞら財団では「呼吸リハビリテーション」の普及に取り組んでいます。呼吸リハによって、公害病患者のように、長年病気を患っている人も、COPDのように最近症状が出始めた人たちも、自分の呼吸を楽にすることができ、楽に呼吸ができるようになります。楽に呼吸ができるようになります。



タブレット端末を手に「COPDチェッカー」を説明する千住先生

「呼吸リハを広めるということをおまわり考えたことがなかったので、広く知ってもらいたい」との大切さを感じました。患者さんの話を聞いて頑

**◆呼吸リハを広めよう**  
呼吸リハは医療や介護の現場でも、まだ認知度が低いのが現状です。そこで、医療従事者を対象とした講習会を2013年にはいって2回開催しました。医師、理学療法士、作業療法士、看護師、保健師、介護職員など約30~40人が参加しました。1回目は異なる医療機関や施設で働く人たち同士が、グループに分かれてそれぞれの課題や今後のアイデアについて話し合うワークショップを行いました。2回目は千住秀明・長崎大学教授を講師に講座と実技を行いました。



「呼吸リハを受けてから階段が楽に上れるようになった」と患者さん

**◆「早期発見・早期診断」、地域での連携が大事**  
COPDはまだあまり知られていないために、未診断、未治療の人が多くいると考えられています。厚生労働省が推進する健康増進運動「健康日本21(第二次)」では、COPDが予防・早期発見の重点対象としてあげられています。そこで、潜在的な患者を見つけるための取り組みもしています。タブレット端末で自分が

**【講習会開催概要】**

1回目=2013年1月22日(火) 18:30~20:30  
 ■[研修報告]体験型学習会「呼吸リハビリテーションの実践及び客観的手法に関する研究会」  
 ■[患者の体験談]呼吸リハビリテーションと私  
 ■[グループワーク]地域でひろげよう呼吸リハビリテーション

2回目=2013年2月17日(日) 13:00~16:30  
 (講師:千住秀明氏)  
 ■[講座]ぜん息・COPD患者の呼吸リハビリテーション  
 ■[実技]呼吸リハビリテーションの実技演習  
 会場=のざと診療所

本事業は(独法)環境再生保全機構の事業の一環です。



グループにわかれてワークショップ

# 西淀川記憶あつめ隊

シリーズ

Vol.5

西淀川の北西の広大な土地に「中島工業団地」があります。西淀川区民でも行ったことがある人は少ないかもしれませんが、地図上では中島二丁目になります。昔の地名でいえば、「外島」「布屋」と呼ばれ、ハンセン病の療養所「外島療養院」があった場所です。中島工業団地の変遷を、大阪工業団地協会の顧問の千葉修さんに伺いました。

2004年10月29日  
聞き取り



千葉 修さん

◆海の中の煙突  
「工業団地では普通、広い土地を買って好き勝手に造成していく」ということが一般的です。ここはそうではなく先に土地を売ってしまいました。後から道路をいくらにしようか、どこにつけようかなど操業しながら開発してきました。何をやるにせよお金がかかります。その都

度お金を集めながら進めました。」と、中島工業団地の難しさについて語ります。「1939年に大谷重工業が中島の土地を取得します。第二次大戦中に溶鉱と耐火煉瓦工場を建設しましたが、軍部の指令によって、創業開始寸前に溶鉱炉は解体され、満洲に移動し稼働したと、大谷の年配者に聞きました。「中島は1934年、1944年、1945年と高潮で堤防が決壊し、水浸しになっています。海の中から煙突が突き出ていた」という話はよく聞きますが、その煙突は大谷重工業のもので

◆神崎川の土砂でかさあげ  
「1959年(昭和34年)11月から中島川河口で大型船舶が航行可能な航路浚渫工事(深さOP-12m)を行いました。川の中心が大阪と兵庫の県境になり、大阪側の浚渫(しゅんせつ)土砂は団地内に入れ、兵庫側の浚渫土砂は兵庫、現在の東海岸町に入れました。」と、神



水没した工場(布屋町)『西淀川区制50年の歩み』より

崎川の土砂で、中島の土地がかさ上げされました。千葉さんは、この浚渫の翌年に大谷重工業に入社します。「1967年に10tと30tのクレーンを備えた2万t岸壁が完成し、大谷の尼崎工場で使用する鉄屑の荷揚げに埠頭設備を使用しました。」しかし、「大谷の放漫、ワシマン経営等で行き詰まり、団地内土地の一部の約82万6千㎡(250003坪)と埠頭設備を債権者7社に代物弁済しました。」と土地を売却することになり、千葉さんはその地籍整理に取り掛かることになりました。

◆土地を整理して工業団地に  
地籍整理は「全部大谷の土地だと思っていたのに、大阪府の土地が



中島工業団地上空から撮影

あったり、陸軍の砲台跡地があったり。法務局には2、3日ごとに通っていました。」と大変な作業となりました。また、「海の中に立っていた2本の煙突を爆破したのは自分です。」とのこと。千葉さんの努力があつて、現在の工業団地に姿を変えたことがわかりました。現在は、産業廃棄物の積み出し港があるなど、様々な変化を遂げてきた中島工業団地。これからの変化にも注目です。 林

(イラスト:とりやまひろこ)

## 吉野家

野里の住吉神社参道に、店を構える吉野家。秋に同神社にて、企画・開催する大阪市立淀商業高校の吹奏楽とともに楽しむお茶会『観月の夕べ』は毎年盛況。地区の伝統行事や淀川を、商品名にする等、地域に根差したお店です。

左:一夜官女絵巻(1本1260円)野里神社の大阪府の無形民俗文化財に指定された祭がモチーフ  
右:淀の川(1個126円)厚生大臣賞他、数々の賞を受賞



## 栄久堂吉宗 千船店

明るい店内には、焼菓子、生菓子、干菓子など、何十種類もの季節に応じた和菓子が美しくディスプレイ。創業200年の伝統を守りながら、新商品の開発にも力を注ぐ。道路挟んで斜め向かいの喫茶『茶廊 葉一條』でつくりたての和菓子をお抹茶で頂きます。

所 西淀川区佃3-1-6  
休 第4木曜日  
営 9:00~19:00  
☎ 06-6471-2405  
HP http://yoshimune.kakuretameiten.jp/



左:もちぎく(1個158円)求肥を極上小豆と最中でくるんだ人気の和菓子  
右:吹上(1個137円)バターを利用した美味あんは、世代を超えて喜ばれそう

vol.3

## 柏里の虹色コラム

オンリーワンのアーケード



LEDの電灯を使ったアーケード

皆さんは商店街の照明や街路灯について、どこまで知っていますか? 地域に光を灯すアーケードや街路灯は、100%公共の物であり、商店街の所有物ではないのです。商店街の会員が資金を出しあい、様々な課題をクリアして申請をし、ようやく市道上に許可を頂き建てさせて頂いています。そしてもちろん、維持管理と保守は全面的に商店街に義務が生じます。一度保有してしまうと返済金、管理費、備品費用、補修費用、電気代など、莫大な賦課金が必要となります。ですから商店街に元気がなくなると、街路灯の維持管理に苦しみ、お住まいの地域に灯りをとす事も困難になります。商店街はそんな大きなリスクを背負いながらも地域に貢献するため、街頭犯罪や非行の抑止を願って、今日も街路灯の光

を灯しています。商店街が灯す街路灯はある意味、地域の活力を示しているのです。私たちサンリバー柏里も、地域の魅力向上と安心・安全を願い、日本で唯一のアーケード改修を行いました。“西淀川区”内のオンリーワンアーケードとして、全国的に知れ渡る事業として注目を浴びています。毎晩“当たり前”に灯る街路灯。地域の闇夜を照らす灯りをいつまでも保つために、地域の安全を願うお住まいの“商店街”でのお買い物を心より宜しくお願い申し上げます。

## ありがとうございます

(2012年11月～2013年2月 敬称略・順不同)

### ●お助けボランティア

大野 みさ子	脇田 武利	土本 育司
金 盛子	辰巳 正夫	池上 甲一
左成 志朗	中島 晃	新田 保次
曾我 翔磨	小林 俊康	和田 美頭子
藤江 めぐみ	伊藤 卓次	井奥 圭介
増田 純子	西口 勲	植田 和弘
南 聡一郎	蔵本 幸治	新井 真
宮本 由貴	逢坂 隆子	上杉 剛
	西村 弘	(株)あゆみ印刷デザイン
	村松 昭夫	清水 万由子
	酒井 健一	松岡 由香子
	宮本 由貴	功刀 恵美子
	澤井 余志郎	神戸製鋼所
	吉田 巖	森山 正和
	鷺坂 長美	小平 清子
	石井 琢也	
	長野 義春	
	松村 暢彦	
	山崎 光信	

### ●寄附・寄贈者

小田 康徳	南 聡一郎	八木 一夫	浅井 真二	藤井 典昭	梅 紀久代	NPO法人アスト 宮脇 淳	船崎 健次
-------	-------	-------	-------	-------	-------	---------------	-------

## りべら No.128 2013年5月号(季刊1日、年4回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)  
 編集人:小平 智子  
 〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階  
 TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885  
<http://aozora.or.jp/> webmaster@aozora.or.jp  
 デザイン:(株)バード・デザインハウス  
 定価:一部400円(郵送料込)  
 会員の購読料は会費に含まれています。  
 本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

あおぞら財団  
 Facebookページ  
 「いいね!」を  
 押してくださいね。

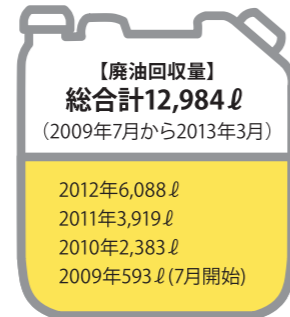


## 読者の声募集

読者のみなさまの日ごろの活動や、アピールしたい事、またはあおぞら財団へのご意見や、リベラのご感想、あふれる西淀川愛など、多種多様な原稿を寄せていただければと思います。文字数は200字です。原稿は、表題を「読者の声投稿」としてE-mail (webmaster@aozora.or.jp) またはFAX (06-6478-5885) でお送りください。皆さまのご参加をお待ちしております。

## 西淀川菜の花プロジェクト

～エコでつながる西淀川～



現在西淀川区内外53箇所で、廃油を回収しています。回収団体募集中。詳しくはあおぞら財団まで。



西淀川菜の花プロジェクトブログ  
<http://nanohanany.blogspot.jp/>

## スタッフツイッター 編集後記

私事ですが、引越しました。期待と不安を抱え塚本駅に降りた7年前。普段着の賑わいが素敵な商店街サンリバー柏里を抜けると、『野里防犯』のちょうちんが家々の軒先にぶら下がる…人情味感じるこのまちを、一目で好きになった事も懐かしい思い出。と、感傷的に綴りましたが、野里から柏里地区への引越しです。にしよどのみなさま、引き続き、よろしくお願いします。

りべらの発行月を2月、5月、8月、11月に変更します。

## 読者の声

### 西淀川は野鳥の宝庫

2000年4月からあおぞら財団と日本野鳥の会大阪支部の共催で始めました矢倉海岸定例探鳥会も今年の4月で13年目となります。厳寒の冬も、猛暑の夏も月1回ですが福から矢倉緑地公園までの野鳥を観察を継続してきました。

どんな野鳥を観察してきたのか簡単に振り返ってみたいと思います。探鳥会では阪神福駅で集合し、大野緑陰道路へ出て淀川の堤防まで歩きます。この緑陰道路ではスズメ、ムクドリ、メジロ、カワラヒワがよく現れます。時にはウグイス、冬にはジョオビタキ、ツグミ等を観察します。淀川に出て堤防に沿って矢倉緑地公園まで歩きます。この間では夏はスマートなコアジサシがふあふあ飛び、時たまダイブして小魚を捕らえます。堤防の斜面ではヒバリ、ムクドリが見られます。冬はホシハジロ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、オナガガモのカモ類の他ハジロカイツブリやユリカモメ、セグロカモメも観察できます。上空をハイタカ、オオタカ、トビが飛んでくれることもあります。淀川の流れの中に立つ鉄塔の常連はミサゴとカワウです。ミサゴは魚



矢倉干潟でエサを探す、旅鳥キアシシギ

を食べる水辺の猛禽(もうきん)で、鉄塔で休息したり魚を食べています。西淀川区を代表する野鳥と言えるでしょ

う。渡りの季節では川岸の石に佇むチュウシャクシギやキアシシギが観察できます。工場側の桜並木や夾竹桃(キョウチクトウ)の林にはヒヨドリ、メジロ、キジバト、時にはイソヒヨドリがいます。神崎川ではホシハジロ、スズガモが常駐に浮寝鳥(ウキネドリ)となって数千羽で浮いていて圧巻です。神崎川右岸の干潟はシギ、チドリ類の貴重な餌場であり、休息の場所です。ここではシロチドリ、

コチドリ、キアシシギ、チュウシャクシギ等が観察できます。このように西淀川区のこのあたりは野鳥の宝庫です。日本野鳥の会大阪支部も戦前から注目して観察してきたところです。西淀の皆さんもかつての公害地が野鳥の宝庫として蘇ったことを誇りに思い、観察会に参加されてはいかがでしょうか。

日本野鳥の会大阪支部支部長 橋本正弘



## <広告募集> 企業・団体・個人の皆さま

より多くの方に「りべら」を知っていただくために、発行部数増にご協力ください。

機関紙「りべら」は、あおぞら財団が取り組む環境活動やまちの情報を伝える会員紙として、これまで年4回(季刊)発行し、あおぞら財団会員様をはじめ、公共施設・店舗・各種施設にて配布しています。紙面上では、大阪市西淀川区を中心に、環境問題や地域再生に取り組む様々な方々に登場いただき、環境の取り組みやまちづくり活動の輪をつなぎ、広げていきたいと思ひます。今回、より多くの方に読んでいただけるよう、発行部数を増やしたいと考えております(2000部→3000部)。そのための印刷資金として、あおぞら財団の活動趣旨に賛同いただき、ともに環境活動に取り組んでいただける企業・団体・個人の皆さまから「広告費」という形での協賛をお願いできればと思います。いただいた資金は、「りべら」の紙面の充実・印刷費として活用させていただきます。どうぞ、ご協力をお願いします。



【りべら広告掲載費】  
 中面1/3頁:3万円/回  
 中面全面:9万円/回  
 お問い合わせ先:あおぞら財団まで

### ディサービスセンター

## あおぞら苑

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

あおぞら御膳

あおぞらの湯

【お問い合わせ】  
 TEL:06-6475-0111 FAX:06-6475-0114  
 URL: <http://aozoraen.com/>  
 運営: NPO法人西淀川福祉・健康ネットワーク

◆あおぞら苑(事業所番号 2771001076)  
 〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号  
 開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数:1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771001407)  
 〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号  
 開所曜日:月曜日～金曜日 利用人数:1日20人